

「木津川市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画」に係るパブリックコメント提出意見
回答案（３月３日令和６年第３回廃棄物減量等推進審議会時点）

- １．公表期間：令和７年１月２８日（火）から２月２７日（木）
２．計画（案）に対する意見提出者数：計　　７人（持参０人、ＦＡＸ０人、電子メール０人、専用フォーム６人）
３．提出意見数：計　　１４件
４．提出された意見：

番号	種別	該当箇所	ご意見	市の考え方	計画への反映
1	意見	全般	<p>『一般廃棄物処理基本計画46ページ家庭系ごみ有料制の継続について』</p> <p>私は今までごみ袋が有料制ではない地域(大阪市)で育ち結婚して引っ越した地域でも一定量は有料制ではない地域(富田林市)でした。昨年夫の転職に伴い木津川市に引っ越してきました。その時に驚いたのがごみ袋の有料制と水道基本料金が倍以上だったことです。</p> <p>ごみは生きていたら必ず出るものなので不法投棄をしない限りは強制的に金銭的負担が発生します。ごみ袋を有料制にする事により、分別を行う人が増えごみが減少しているのかもしれませんが昨今の物価上昇の中でごみ袋代金がかかり家庭への金銭的負担になっています。</p> <p>そして、プラスチックごみと一緒に燃えるごみを入れている人が同じアパートに住んでいる人の中でおり、ゴミ庫の中にずっと溜まっております。ごみ袋が有料制な事により気軽にごみを捨てれずこのような事になっているのかなと思ったりもします。住んでいる人間の民度の問題かもしれませんが有料制ではない地域に住んでいた時はこのような事がなかったの…</p> <p>富田林市は4月にごみシールが配られ、そのシールを貼ってごみ出しをするルールでした。シールが足らなくなれば購入という仕組みだったので足りなくならないようにする=ごみの減少に繋がるという形でした。</p> <p>シールを配布するコストなどを考えると市の負担が増えると思うのでなんとも言えませんが貧困な住民(わたし)にとってはとても良かったのでそのような制度も検討していただきたいです。</p> <p>また、一般廃棄物処理基本計画書14ページ社会的環境の人口に今後は減少する見込みとありましたが、私も将来は木津川市ではない場所に住みたいなと思っています。そのうちの理由の1つにごみ袋が有料制という事もあります。今は20代前半なのでこれから考えがまた変わるかもしれませんが今現時点ではそう思っています。</p> <p>昨年引越してきたばかりで住民税の支払いもまだ木津川市ではなく、居住年数も浅く生きてきた年数も少ない人間がつつらと意見してしまい申し訳ありません。</p> <p>私が産まれてから4歳半くらいまでは木津川市に住んでいたの思い出入れがあり好きな場所です。転入届の際にごみについての説明がかなりたくさんありとても厳しい市なんだな…と思いました元々分別とリサイクルはしていたのでそこは特に苦ではありませんし、スーパーなどにリサイクルBOXがたくさんあって助かっています。ごみの減量化、そして不法投棄やポイ捨てが0になりますように！</p>	<p>ごみ袋の有料制を導入することで、ごみの排出量を減らせば、ごみ袋の購入費用が減るという経済的インセンティブが生じるため、ごみの減量化に繋がると考えています。</p> <p>また、有料化による収入の一部を基金に積み立て、ごみの減量・再資源化、次世代に豊かな自然環境を継承するための財源として活用しています。</p>	—
2	意見	46頁	<p>46ページ 6-5ゴミの排出抑制 ア)家庭系のゴミの有料制継続について、ゴミの処理が有料なのは仕方ないが、木津川市はゴミ袋が高すぎる。他の自治体であれば、100円程度なのに、木津川市は500円もする。住みにくい街にならないように、価格を見直すべきです。</p>	<p>可燃ごみの有料化に際し、ごみの発生抑制と分別促進効果、周辺自治体における料金水準を考慮しまして、１kgあたり１円としました。</p> <p>また、指定ごみ袋の大きさも、7リットル、15リットル、30リットル、45リットルと４種類設け、排出量に応じた大きさの袋を選んでいただけるようにいたしました。</p> <p>引き続き、周辺自治体における料金水準、ごみの減量化の状況を鑑み、適正な価格の設定に努めてまいります。</p>	—
3	意見	47頁	<p>47ページ 6-5ゴミの排出抑制 ウ)減量化の取り組み ②生ゴミの堆肥化、減量化について、行政の考えは評価できるが、その活動が余り知られていない。特に補助金制度等をもっと周知させるべきです。</p>	<p>MOTTAINAI（もったいない）便りや、市ホームページ等の広報媒体において、積極的な周知を図ります。</p>	—
4	意見	全般	<p>基本計画全体 行政が主体で実施するのは分かるが、あまりにも市民に周知されていない。もっと要点を纏めて視覚的に訴える必要があります。</p>	<p>概要版も作成していますので、ご参照いただければ幸いです。</p> <p>今後の改善事項として、ご意見を賜ります。</p>	—

番号	種別	該当箇所	ご意見	市の考え方	計画への反映
5	意見	47頁	<p>p47 生ゴミのたい肥化</p> <p>本市在住の方々は家庭菜園や自分で野菜作りを楽しんだり、花づくりに熱心な人が多い。有機農法のセミナーなどを開催すると、子育て世代のお父さん、お母さんが大勢集まってきます。生ゴミを堆肥化して自分たちで安心安全な野菜作りができればゴミの減量にも繋がります。</p> <p>現在、自分で野菜作りをしたいという子育て、世代のお父さんは結構多いのですが、現実にはその畑が手に入りません。レンタル農園というような形で。市で用意する必要があると思います。</p> <p>生ゴミの堆肥化は実は面倒なものです。私は和東町にて生ゴミの堆肥化に参加しました。木津川市の財政規模から言えば、それほど負担にならないと思います。なお、わずか町は単に生ゴミを堆肥化するという作業だけではなく、学習の機会と捉え環境教育の場になっています。子育て世代のお父さん、お母さんが野菜作りに興味があるということは、当然子供たちの学校での学びにもつながるのではないかと思います。</p>	<p>市内小中学校で出前授業を行っており、学校給食堆肥を学童農園等で使用しています。</p> <p>資源としての循環を学ぶ機会や、ご家庭での会話を通して保護者の環境意識の啓発に繋げています。</p> <p>市民農園事業は、農地所有者が遊休農地対策や農業経営の規模拡大に向けた取組みのひとつとして実施する農園開設事業に影響を及ぼすとして、平成31年3月をもちまして閉園しております。</p> <p>市内の農業者が開設する市民農園を市HPで周知するなどその利用拡大に努めているところです。</p> <p>市農政課（農業委員会）では、市農地バンク制度を実施しており、農地のあっ旋事業等も行っています。</p>	—
6	意見	23頁	<p>23ページ</p> <p>人口が減っていったら1人あたりのゴミの量も減っていったらはずなのに、指定のゴミ袋がありさらに有料化するのはいかがかと思います。</p> <p>横の市の精華町や京田辺市は透明な袋や乳白色の袋なのに。それもあって人口が減っていったらのではないかと思います。</p> <p>指定にするならもう少し金額安くするか、市が市民に無料で配布するとかしてほしいです。</p> <p>税金とりすぎじゃないかと思います。</p>	<p>ごみ袋の有料制を導入することで、ごみの排出量を減らせば、ごみ袋の購入費用が減るという経済的インセンティブが生じるため、ごみの減量化に繋がると考えています。</p> <p>また、有料化による収入の一部を基金に積み立て、ごみの減量・再資源化、次世代に豊かな自然環境を継承するための財源として活用しています。</p>	—
7	意見	全般	<p>ゴミの削減対策としての意見ですが、ビニール、プラスチックも可燃ゴミとして捨てている方が私の周りだけでも何人か把握しております。</p> <p>対策方法は難しいかもしれませんが、沢山の方が分別をしっかりする事で、可燃ゴミの削減が少しは進むのかなと思います。</p>	<p>MOTTAINAI（もったいない）便りや、市ホームページ等の広報媒体において、積極的な周知を図ります。</p> <p>なお、汚れていても洗浄が難しいビニール・プラスチック容器包装（マヨネーズやワサビのチューブなど）、洗うために多量の水や洗剤を使うなど、かえって環境への負荷が大きいと考えられる場合は可燃ごみとして出していたくよう周知（お問い合わせへの回答）しています。</p>	—
8	意見	6頁	<p>P6 ・木津川市市民提案型ごみ減量活動等補助金交付要綱に関して</p> <p>木津川市市民提案型ごみ減量活動は、市の独自性の高い活動ですので、活動内容や実績、目標について記載することができないでしょうか。</p> <p>家庭系ごみの制有料指定袋の収入を原資とする循環型社会推進基金を活用した活動であることも記載すべきと考えます。</p>	<p>現在は、もったいないプランにて施策の内容や目標を記載しております。</p> <p>もったいないプラン改訂の際には、本内容の更新や記載内容について、ご意見も踏まえ検討したいと考えます。</p>	—
9	意見	6頁、30頁	<p>p 6 p 30・木津川市家庭ごみふれあい収集事業実施要綱 について</p> <p>事業の内容はもちろん、実施していることさえ知らない方が多いです。周知方法を考えるべきです。公式ラインを活用してはどうでしょうか。</p> <p>他、実績や目標値について、HPページで検索しましたが、見つけれませんでした。</p>	<p>ふれあい収集は、目標値を定める事業ではないと認識しています。</p> <p>ケアマネジャーや社会福祉課・高齢介護課との情報交換により制度の周知を図るほか、公式LINEやMOTTAINAI便りなど、効果的な周知方法を検討します。</p> <p>また、実績の記載について、検討します。</p>	—
10	意見	18頁	<p>p 18</p> <p>エネルギーの有効活用について、クリーンセンターの余剰電力と市内各家庭の余剰電力を活用して自治体が出資する電力小売会社の設立（例：いこま市民パワー株式会社）を目標にすることが可能ではないでしょうか。</p>	<p>環境の森センター・きづがわは、一部事務組合で運営していますことから、ご意見を伝えます。</p>	—
11	意見	19頁	<p>p 19 排水クローズドシステムについて</p> <p>環境に配慮した取り組みですが、知られていません。生活水か雨水がセンターから出ていくのが見えるため、たいていの方が処理水が施設外に流されていると思われています。何か機会を見つけて、アピールできると良いと思います。</p>	<p>環境の森センター・きづがわは、一部事務組合で運営していますことから、ご意見を伝えます。</p>	—
12	意見	39頁、50頁	<p>p 39</p> <p>さらに、「可燃ごみ」に含まれている紙類について、集団回収による資源化を推進し、その10%の削減を図ります。とあります。</p> <p>古紙回収団体に、可燃ごみに含まれる雑紙の改修率を上げるように依頼するとともに、雑紙にターゲットを絞り補助額を上げる等の工夫が可能ではないでしょうか。</p> <p>p 50 7 食品ロス削減推進計画について</p> <p>p 12に計画の位置づけが書かれていますが、p 50で再度、計画の趣旨を書しておくべきではないでしょうか。他、基本目標を表にして年度ごとの目標値が一目で分かるなど視覚に訴える情報も欲しいです。</p>	<p>令和7年度は一律5円から7円へと引き上げる予定です。</p> <p>資源化できる古紙類の中で雑がみの認知度が低いことから、ご意見の雑紙の補助金単価を上げることも有効な手段と考えます。</p> <p>雑がみ保管袋の配布などの施策の成果、検証を踏まえ、一部種別の補助金単価の引き上げについても検討いたします。</p> <p>食品ロス削減計画について、ご指摘の箇所に、再度計画の趣旨を明記します。</p>	○

番号	種別	該当箇所	ご意見	市の考え方	計画への反映
13	意見	26頁	26ページ、表4-10　ごみの種類別排出量中、ペットボトルは令和2年度234 ^{ﾄﾝ} から令和5年度302 ^{ﾄﾝ} と増加しています。しかし、41ページ、表6-3-1　計画ごみ量の将来推計結果では、令和22年度に258 ^{ﾄﾝ} と一途減少するとの計画になっています。減少する根拠、取り組みの記載がありませんので、これでは「絵に描いた餅」であります。減少する根拠、取り組みを示してください。	まず総排出量についてですが、39ページ図6-2「推計結果及び総合計画の将来人口（目標）」のとおり、人口は減少しますので、41ページ表6-3-1「計画ごみ量の将来推計結果」におけるペットボトルの排出量も減少する見込みとなります。 次に原単位についてですが、飲料メーカーにおいてもペットボトルの軽量化に取り組んでおり、ペットボトルの軽量化が進むことによる排出原単位も小さくないと見込んでいます。 また、事業所・店舗のご協力により取り組んでいます給水スポットの拡充、マイボトルの持参を推進啓発活動の推進により、ペットボトルの排出量を削減めざします。	—
14	意見	42頁	42ページ、6-4　計画ごみ処理量　で下から4行目、「サーマルリカバリーによる資源の有効活用を図るため、廃プラスチック類や・・・」の記述がありますが、サーマルリカバリーによる熱エネルギー回収は、新しい環境省の方針とは相容れないのではないですか。2021年5月、6月の衆参両院環境委員会での「プラ資源循環法」に関する質疑が行われ、その中で、「焼却中心」から「減量・資源化優先」の新たな方針が示されました。この部分の修正を求めます。容器包装ごみ813 ^{ﾄﾝ} 中233 ^{ﾄﾝ} 29%、燃やさないごみ887 ^{ﾄﾝ} 中216 ^{ﾄﾝ} 24%、粗大ごみ713 ^{ﾄﾝ} 中174 ^{ﾄﾝ} 24%、ペットボトル258 ^{ﾄﾝ} 中91 ^{ﾄﾝ} 35%を焼却する計画は、環境省の新しい方針に反しています。	プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律では、リデュース「排出抑制」、リユース「再利用」、リサイクル「再資源化」に加え、リニューアブルが加えられ、包装や製品自体をプラスチックから木材や紙、バイオプラスチックに置き換えることが示されています。 本市では、既にビニール・プラスチック容器包装の分別回収を行い、再資源化に取り組んでいますが、製品プラスチックは可燃ごみとして焼却処分しています。 プラスチック使用製品は、素材が多様であり、また金属などと一体形状である製品も多いことから、分別回収後の再選別、分離・分解などの中間処理が大変な作業となります。 本市の中間処理現場では、再資源可能な品目ごとに多岐にわたる選別や分離・分解などの中間処理を行っていません。しかし、新たにプラスチック使用製品を中間処理するためには、新たな器機の導入が必要となりますが、新たな器機の設置場所や分別前後の保管場所を確保することができない状況にあることから、現時点において、プラスチック使用製品を新たに分別収集する予定はありません。 また、分別収集された資源化が可能なごみ類の中には、異物の混入だけでなく、汚れていて再資源化できない状態のものが含まれているため、資源化可能な分別ごみの全てを再資源化することは不可能であり、ある程度は焼却処分する必要があります。	—